



防虫防鼠もIoT化してみませんか？

「IoT (Internet of Things)」という言葉をご存知でしょうか。これは「モノをインターネットと繋ぐ」技術のこと、近年よく使われるようになったIT用語の一つです。身近なIoT化されたものだと、洗濯機や冷蔵庫など家電、自動車、家の鍵などがそうです。これらはインターネットに接続されており、離れた場所からスイッチのオンオフや、状況の確認などができる機能を持ちます。

そんな中、ペスクルやペストビジョン、
スリーエヌといった、IoTや画像認識技術を

ナビゲーションメニューの設置――財團法人日本音楽振興会



図1：IoT化された防虫防鼠活動のイメージ

防虫防鼠分野に活かした製品が出てきました。これらは捕虫器に捕まつた虫や、カメラに映ったネズミの状況をインターネットを介して自動で報告してくれるという特徴があります。虫やネズミの状況を把握して問題の早期解決に繋げたい、天井裏など点検しにくい箇所の調査を省力化したいといった場合におすすめです。

これら製品と従来の人が点検するタイプの製品との大きな違いは以下の三点です。

- ①害虫や害獣の発生をリアルタイムに通知 :**
メール通知等で問題を随時把握することができるため、早期に対策を講じることができ、被害の拡大が防止できます。
 - ②出現・発生状況の可視化・分析 :**
いつ、どこで、何頭の捕獲や目撃があったかを可視化できるため、傾向分析に役立ちます。
 - ③遠隔監視による省人化・省力化 :**
現場に行かずして害獣の出現状況を把握したり、防除対策の効果確認ができるため、防除業務の効率アップを実現できます。

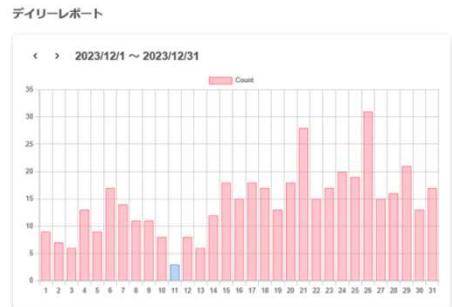


図2：日次レポートのイメージ

一般的にこのような高機能な製品のデメリットは導入コストになりますが、今回ご紹介した製品は月額レンタル契約になるため、初期費用を抑えて導入することができます。

また、導入をご検討する際のお悩みに、どんなものなのか分からぬ、自社で活用できるかわからぬ、電波が届くのか不安、といったお声があります。そんな場合はデモ機の貸し出しも承っております。その他にも設置場所や、従来型製品のご相談も可能です。検討の際には、ぜひお気軽にお問い合わせください。

今月の 豆知識



不老不死！？長生きする生き物

「鶴は千年、亀は万年」と言いますが、実際の寿命はそんなに長くはありません。鶴は20～30年（飼育時50年以上の記録も）、亀は小型種が20～30年、大型種が100～300年程度の寿命だそうです。もっと長生きする生き物は他にいるのでしょうか？実は世界には本当に千年、万年も生きることができる生き物が存在します。

ホッキョククジラは地球上で最も長生きする哺乳類の一つで、200年以上生きることが確認されています。代謝が低く、捕食者が少ないことが長生きの理由です。

ニシオンデンザメは深海に生息するサメであり、その寿命は400年以上と推定されています。こちらも同じく代謝が極めて低いことが特徴です。成長速度が非常に遅く、成熟するのに150年以上かかると言われています。

- 黒サンゴは4,000年以上と、ついに千年を超みました。年に数mm程度しか成長しないことが長寿の秘訣です。

ガラス海綿類は15,000年以上とされています。こちらも非常にゆっくりと成長するため、とても長生きで「海底の生きた化石」とも言われています。

最後にご紹介するのはベニクラゲです。こちらはなんと不老不死！このクラゲは命の危機を察知すると、幼体（ポリプ）に戻り、再び成長して成体になることができます。しかも、この若返りを繰り返すことができるのです。不老不死と呼ばれています。

(ギリゴ)に亘り、重び成長しては、妻1：長春の生物TOPF

名前	寿命
ベニクラゲ	不老不死
ガラス海綿類	15,000年～
黒サンゴ	4,000年～
アイスランドガイ	500年～
ニシオンデンザメ	500年～

出典 : The 21 Longest Living Animals in the World (Lifespan) | Ultimate Kilimanjaro